

アルナーチャルでのワークショップ開催と「倒木」の検出

出張者（所属）：宮本真二（琵琶湖博物館）

●日程

2011年2月4日～2月18日 主要訪問国名など：インド

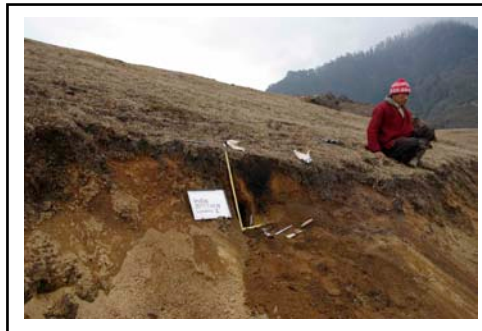
●行程

2月4日関空ーバンコク（移動）、5日バンコクーコルカターゴウハティーボンディラ（移動と研究打合せ）、6日ボンディラ（共同研究者との打合せ）、7日ボンディラ（研究打合せと調査準備）、8日ボンディラーディラング（打合せ、研究発表・調査準備）、9日ディラング（ワークショップ）、10日ディラング（ワークショップ）、11日ディラングールブラン（調査準備、研究打合せと移動）、12日ルブラン（野営調査：表層地質）、13日ルブラン（野営調査：表層地質）、14日ルブランーディラング（野営調査と移動、打合せ）、15日ディラングーボンディラ（研究打合せと移動）、16日ボンディラーテズプール（研究打合せと移動）、17日ゴウハティーコルカタ（研究打合せと移動）、18日バンコクー関空ー帰着（移動）

●報告



火入れを受けた倒木（2860m）：黒色部



火入れを受けた倒木の検出状況（2860m）



ゴウハティ大学での打合せ

インド北東部（アルナーチャル・プラデシュ州）における、土地開発過程を明らかにするために、①医療キャンプが行われたルブラン近郊において表層地質調査を行った。その結果、数カ所において火入れを伴うような開発痕跡が確認された。また、これまでの研究成果を現地の共同研究者らと情報を共有するために、ワークショップを開催し、研究報告を行った。